

## 三原市民と市長の「みらいトーク」(第1回) 実施結果

令和2年10月30日

**目的** 市長が地域や団体の活動の場に出向き、市民との対話を通じて市政やまちづくりに対する積極的な意見や提案を広く聴き、今後の市政運営に活かすとともに、市民の市政への参画機会の拡充を図ること。

**日時** 令和2年10月12日(月曜日) 11時から12時

**場所** 沼田東コミュニティセンター(沼田東町)

**参加者** はっちはっち(7名)、三原市長

(はっちはっちについて)

・団体設立年月 2017年7月(約20名で構成)

三原のことをもっと知りたい、もっとまちづくりに関わりたい、三原のことをたくさんの方に伝えたいという思いをもつメンバーが集まり、市民団体として設立。

・活動内容 地域交流、地域活性、地域情報発信、子育て支援を目的に活動。

最近では、まちあるきを通じて、市内の観光スポットや立ち寄りスポットをブログで発信。

### 主な意見と回答

項目	意見内容	市長の回答
三原市の魅力	<ul style="list-style-type: none"><li>・「三原は何もない」という人がいるかもしれないが、色んな視点でまちをみると、古墳といった史跡やお寺の多さなど、色んな発見がある。</li><li>・2年前に駅周辺のお寺をめぐって謎解きするイベントがあったが、好評だった。</li><li>・「三原って何もない」と思っていたが、三原の魅力を見つけて発信する楽しさを覚えた。県外に出た友達に発信して良い反応を得ると楽しい。そういう人が増えると嬉しい。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・古墳やお寺は歴史を調べるとおもしろい。そういったことを教育のツールにするイベントがあっても良い。</li><li>・市長に就任する以前、「三原だるま」をプログラミング教育としてアレンジしたことがある。古墳にしてもお寺にしても、アレンジを加えて子ども向けのイベントに仕掛けられると面白い。</li><li>・県外の友人に三原の魅力を簡単に発信できることは、SNSの魅力の一つと思う。</li></ul>

<p>市政情報の発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Facebook「やっさだるマン」のアカウントがあるが、更新されず止まっている。もったいない。</li> <li>• 最近、市のホームページの更新が早い。</li> <li>• 市政情報は「広報みはら」から得ている。スマートフォンでも広報誌を閲覧できるが、慣れていることもあり、広報誌が良い。手に取れる所に置いて、何かあれば見ている。「何かあれば広報」という感覚が身に染みついている。新聞紙と同等の身近さがある。</li> <li>• 私たちの親世代は Facebook, 若い世代は Twitter など、世代によって活用する SNS が異なると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「やっさだるマン」アカウントの更新については、担当部署(観光課)へ報告する。</li> <li>• 広報誌を発行する時点で掲載できていない情報については、SNS を活用してタイムリーに発信していきたい。</li> <li>• 今後、LINE の導入を検討しているので、ぜひ活用していただきたい。</li> </ul>
<p>協働</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 市がどんなまちづくりをめざしているのか、市民団体に何を期待しているのかが明確にわかれば、団体としてできることを考えられる。市長の考えを SNS など広く発信すれば効果は高いと思う。</li> <li>• 市外から引っ越してきた時、「まちづくりに関わりたい」という気持ちがあり、少しずつ関われるようになり、団体の一員として今は活動できるようになった。希望のある人が参加できる何かがあると良いかなと思う。はっちはっちのインスタグラムをみて共感したり興味をもったりして団体の一員になってくれた人もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 市民の発意で取組が動いているところに、行政がバックアップできる体制が作れたらいいなと考えている。</li> <li>• 市として「こういうことできないかな」と実現に向けた構想を示していれば、団体とのコラボレーションをうまく進めることができると思う。皆さんと一緒につくっていくことをこれからやっていきたい。</li> <li>• まちづくりに関わりたいと考えている人に対して、皆さんのような団体の取組を知る機会があれば、人とのつながりをつくることができると思う。</li> <li>• 三原はまちがコンパクトで人と人の距離が近い。つながりやすい環境はポテンシャルの一つと思う。人と人がつながることで事業が始まることもある。これは伸ばしていきたい。</li> </ul>

<p>医療</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特定不妊治療ができる病院が三原市内になく、福山市や広島市へ行くしかないが、公共交通機関の使用に係る費用のみが助成金の対象。ガソリン代は助成の対象とならない。福山市くらいの距離だと自家用車で移動するが、産婦人科特有の待ち時間の長さで、外食をせざるを得なくなってしまうこともあり、治療以外の出費も発生する。三原独自の助成制度があれば、金銭的な理由で不妊治療を積極的にできなかった家族が、治療に前向きになるのではないか。三原市は子どもにやさしいまちだと思うので、「子どもを産みたい」と思う人の受け皿がもっと広がると、もっと素敵ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 制度を確認する。</li> </ul> <p>※後日確認したところ、意見の内容は交通費の補助に関するものではなく、特定不妊治療の受診に係る交通費の医療費控除に関するものと判明。</p>
<p>教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三原にフリースクールを充実させてほしい。三原には1つしかなく、情報が乏しく、市の適応指導教室の情報も乏しい。発達障害を抱える家族のニーズ増大している。自分の未来が安心して描けるように居場所と教育の機会を確保してもらいたい。</li> <li>・ 小中学校隣接校選択制度について。幸崎中学校の隣接の第四中学校しか選択できず、どちらも生徒数が40人台と少ない。部活動も、幸崎中学校の男子運動部は陸上部と野球部のみであり運動が苦手な子は仕方なくどちらかに入る。文化部への入部は、外部の運動クラブ等に所属していることが入部条件。帰宅部は認められない。運動が苦手な子は居場所がない。公立中学校を自由に選択できる制度や、部活に入らないことも自由に選択でき、また</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ フリースクールには私も関心がある。こどもの居場所づくりができるいいと思っている。ご意見として承り、今後の施策検討の参考にする。</li> <li>・ 教育委員会に現状を確認する。</li> <li>・ 昔からある問題と思う。私も外部のサッカークラブに所属していたが、必ず運動部に所属せねばならなかった。所属する部を選択できるのは良いと思う。部活動は色んな人間形成に役立つため、大切と考えている。</li> </ul>

	<p>は、中学生限定で安い月謝のプログラミング教室を設置するなど、運動が苦手な子どもでも生き生きとできる場所があると嬉しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・e スポーツの部活がある高校があるといいと思う。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活の顧問の考え方に昔の考え方が残っている。時代にあった考え方に変わっていてもいいのではないかと思う。自分たちの頃とやっていることが変わらない。とにかく筋トレと走ることをやればいい、足が少々痛かろうが。できるだけ長く競技を続けていけるように、けがを予防するためのストレッチやトレーニングを学ぶことを期待しているが、ただひたすら大会に向けてトレーニング。息子の通っている学校のことしか知らないが、教育現場の現状をみていただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状を確認する。</li> <li>・根性論は私たちの時代にもあったが、最近は割と科学的にやっているように聞く。筋トレは2日連続でやって1日休むと効果的など。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生との意見交換の場も持ってもらいたい。</li> <li>・私のこどもは尾道の高校へ通っているが、尾道市長が学校へ来て、尾道市の良いところをすごく話されたようだが、家へ帰ってきて「三原の方が絶対に良い」と悔しがっていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来的に開催したい考えを持っている。子ども目線で三原のまちづくりを一緒に考えていく話をしたい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが支援学級に通っている。クラスには4学年の5人の児童。それを一人の教員が担当されている。支援学級なので皆個性が強い。それを一人で担当している先生の負担が大きいように見える。補助的な先生がいると、担当の先生の負担軽減になるのではないか。1年ごとに先生が代わっている。ちょっと考えていただけると嬉しい。発達障害</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見として承り、今後の施策検討の参考にする。</li> </ul>

	<p>の子がリハビリに行こうと思っても、その場所が少なく争奪状態になっている。子どもがよりよい大人をめざして訓練する場があったら親も安心するし、子どもも自分の思いを受け止めてもらえる人が増える。そんな場を増やしてもらえると嬉しい。学校も荒れ気味。コロナの影響もあるのだろう。先生にも心の余裕が必要だと思う。</p>	
交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の北部の子どもたちが高校へ通うのに、交通が不便で通いにくいと聞く。そのため、住みたくても通学を考えると住むのはどうだろう、という意見がある。北部に住んでも高校へ通いやすいようにバスを走らせるとかがあったらいいと思う。そうすれば北部も住みやすくなると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見として承り、今後の施策検討の参考にする。</li> </ul>

※特定不妊治療 … 体外受精及び顕微授精

※フリースクール … 不登校の子供を受け入れることを主な目的とする団体・施設

※隣接校選択制度 … 小・中学校へ入学する際、就学学校のほか「隣接校」（通学区域の境界線が互いに隣接している学校のうち、教育委員会が指定する学校）に入学を申請すれば、受け入れ人数の範囲内で入学できる制度